



滝沢さん（左）の案内で権堂のアーケードを歩く参加者たち

長野・権堂町周辺 「花街」の歴史探訪 お座敷文化味わう 街歩き楽しむ催し

長野市権堂町周辺で街歩きを楽しむ催しが20日、開かれた。歴史好きで西鶴賀町のタクシー会社「つばめタクシー」社長の滝沢洋将さん(45)が、かつて花街として栄えた権堂町の歴史やお座敷文化を紹介。権堂町で親しまれていた端唄や小唄の演奏もあり、参加した約10人は街の歴史や文化への理解を深めた。

滝沢さんは長野市誌などを

基に、権堂町では明治時代初期に芸妓文化が始まり、明治時代後半から大正時代にかけては芸妓が社会的地位を確立し、「世の中に認められていた」などと解説。「ここが表権堂通り」などと紹介し、権堂アーケードを歩いた。

西鶴賀町公民館では住民有志4人が、かつて権堂で歌われていたとされる端唄などを披露。参加者は三味線や笛の音色に聞き入った。参加した同市東鶴賀町の中牧いわ子さん(78)は「お座敷文化の唄を聞いてみたかった。知らなかった権堂の歴史を知ることができて面白かった」と喜んでいた。



地元住民有志が演奏した小唄や端唄に聞き入る参加者たち